

鬼女の如く現れ出でし桃の種

桃の皮食へぬ一句を作りけり

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

白桃の代りに鬼の呉れしもの

桃の皮突つ張るやうに桃太る

白桃にはしたなき種ありにけり

お供への桃を生者が分つなり

白桃の大きな皮と思ふかな

桃の実の花柱名残といふあたり

白桃は欠伸の如く大きかり

薄皮を引けば桃の実桃の皮

積み上げて夢の高さの桃の山

白桃や梨や柿とはまた別の

白桃や死者の旅路の安かれと

桃色は桃の実のいろ甘さうな

桃すもも少し離れて雨後と死後

わが好きのヘビーシロップ桃缶の

桃の傷大きく切つて捨てにけり

桃する幼なのほつぺ落ちさうな

白桃に一生の傷ありにけり

老いぬればやがて仙人桃啜る

宵の口月に供へし桃を食ふ

食つてやらねば桃は樹上に腐るのみ

桃啜る雨の予報に雨の来て

白桃の柔肌に刺すフオークかな

もものみのうすももいろにふくらんで

桐箱と云ふにあらねど桃の箱

桃の香の残る机に稿を継ぐ

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

灯を消して白桃の香を存分に

白桃の無実<sup>に</sup>赤き種が出て

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ

白桃のいくらでもある桃畑

白桃を食ひ白桃の人となる

花の痕とんがつている白桃よ

桃の実をひたと包んで桃の皮

白桃の中に苦惱の種がある

9.4 14:57 彭ふり札

2

鬼女の如く現れ出でし桃の種

白桃の代りに鬼の呉れしもの

お供への桃を生者が分つなり

白桃は欠伸の如く大きかり

積み上げて夢の高さの桃の山

白桃や死者の旅路の安かれと

桃すも少し離れて雨後と死後

桃の傷大きく切つて捨てにけり

白桃に一生の傷ありにけり

宵の口月に供へし桃を食ふ

桃啜る雨の予報に雨の来て

もものみのうすももいろにふくらんで

桃の香の残る机に稿を継ぐ

灯を消して白桃の香を存分に

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ

白桃を食ひ白桃の人となる

桃の実をひたと包んで桃の皮

桃の皮食へぬ一句を作りけり

桃の皮突つ張るやうに桃太る

白桃の大きな皮と思ふかな

薄皮を引けば桃の実桃の皮

白桃や梨や柿とはまた別の

桃色は桃の実のいろ甘さうな

わが好きのヘビシロップ桃缶の

桃すする幼なのほつぺ落ちさうな

老いぬればやがて仙人桃啜る

食つてやらねば桃は樹上に腐るのみ

食つてやらねば桃は木の枝に腐るのみ

白桃の柔肌に刺すフオークかな

桐箱と云ふにあらねど桃の箱

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

白桃のいくらでもある桃畑

花の痕とんがつている白桃よ

桃の実の花柱名残といふあたり

白桃の中に苦惱の種がある

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

白桃にはしたなき種ありにけり

白桃をもぎたる枝の軽やかに

枇杷の種 2024.9.4 14:55

2024.9.4【全然堂歳時記秋】

【桃】 選29句

ほろの 14:14

あつみより 2024  
大きな桃の 9.4  
をかれました 23:34

鬼女の如く現れ出でし桃の種

お供への桃を生者が分つなり

白桃は欠伸の如く大きかり

積み上げて夢の高さの桃の山

白桃や黄泉路の旅の安かれと

桃の傷大きく切つて捨てにけり

桃の実に一生の傷ありにけり

宵の口月に供へし桃を食ふ

桃啜る雨の予報に雨の来て

もものみのうすもいろにふくらんで

桃の香の残る机に稿を継ぐ

灯を消して白桃の香を存分に

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ

桃の実をひたと包んで桃の皮

桃の皮突つ張るやうに桃太る

白桃の大きな皮の縮むなり

薄皮を引けば桃の実桃の皮

桃色は桃の実のいろ甘さうな

わが好きのヘビーシロップ桃缶の

桃すする幼なのほつぺ落ちさうな

古いぬればやがて仙人桃啜る

桃の実の柔肌に刺すフォークかな

桐箱と云ふにあらねど桃の箱

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

12行3段組14ボ 2024年9月4日 20:01 桐10

3 水蜜桃

桃の実は9.4 23:33

3行9.14 9.15 2

9.4 23:28

9.5 14:18

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

桃を引けば水着の如くは夜に吐き出せり 23:27

仙人にさるもたし

26 24 9.4 23:22

2024.9.5 【全然堂歳時記秋】

【桃】 選27句

12行3段組14ボ 2024年9月5日 17:15 桐10

鬼女の如く髪振り乱す桃の種

お供への桃を生者が分つなり

あぐびほどの大きな桃の置かれある

あてもなく三途の川に桃を積む

白桃や黄泉路の旅の安かれと

桃の実に一生の傷ありにけり

桃の傷大きく切つて捨てにけり

宵の口月に供へし桃を食ふ

桃噺る雨の予報の当りし夜

もものみのうすももいろにふくらんで

桃の香の残る机に稿を継ぐ

灯を消して桃の実の香を存分に

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ

桃の実をひたと包んで桃の皮

桃の皮一枚にして桃包む

桃むけば水着のやうに縮む皮

桃色は桃の実のいろ甘さうな

わが好きのヘビーシロップ桃缶の

桃すすする幼なのほつぺ落ちさうな

じわじわと桃の形でなくなりぬ

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

桃の実のいくらでもある桃畑

花の痕つんとしてゐる桃の実

桃の実にはしたなき種ありにけり

枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

桃の実の中に苦悩の種がある

9.6  
9.8

4

9.6  
5:5 am

9.6  
8:35 am

9.6  
5:13 am

林太郎林を食れ桃が好き  
9.9  
5:20 am

白林を食ひしはこれ  
9.8  
2:43 am

